

標準眼科学 第10版

大野重昭, 木下 茂 編 水流忠彦 編集協力

医学生, 臨床研修医, 眼科研修医の皆様, そしてコ・メディカル, 医療関係者の皆様こんにちは。本日はここに『標準眼科学』第10版をご紹介します。

本書は第1版が1981年と20数年前に出版された歴史ある眼科教科書です。私の研修医時代, 本書とはとにかく知りたいことがすぐ, よくわかる, 従来の教科書とはちょっと違う新しいスタイルの本でした。今, 20数年たち, 記念すべき第10版の本書を見てその新鮮さに再び驚きました。TEXTに入る前の1ページに描かれた眼球の説明図がとても印象的です。いつも, ポリクリの学生さんや研修医が外来や手術室で脇にはさんで持っているこの本が, なぜ新鮮でわかりやすいのか考えてみました。

第1は, 項目立てです。見出しはとてもわかりやすく, 1つの項目に400字以上の文字数はほとんどなく, 短く完結しています。それがわかりやすい秘訣です。もちろん, 執筆されている先生はそれぞれの分野のエキスパートの教授陣です。

第2には, 1ページのうちの3分の1から半分が, 図表となっていて, アトラスではないかしらと思わせる構成です。手術手技や検査の具体的な方法がきれいな写真を用いて説明されています。写真の質はとてもよく, 鮮明なカラー写真です。眼底写真や前眼部の写真の解像度もきわめてよいものが採用されています。眼科医でも理解が難しい機能的分野の説明には, とてもうまいイラストを使っています。

第3に, 少し前述しましたが, 情報が新しいという

ことです。眼科領域では, 日進月歩のテクノロジーの発展や新しい薬物, レーザーの治療など, 著しい変化が起きています。本書では従来の教科書ではなかなか対応できないような最新情報をできるだけ先取りして載せています。2,3年に一度改訂されてきた賜物です。本書第10版の“序”には, 21世紀の現代眼科学の進歩にふさわしい新たな構成の中で, それを余すところなく網羅した自信作であると書かれています。どの専門科を選択しようとも, 全身病との関連やプライマリケアの習得に眼科学を理解していただくことは必要になると思います。特に高齢社会ではますます眼科疾患が増えてくるでしょう。

今回, おまけについている国試対策は, 第97回(2003年)から第100回(2006年)まで, 計4回の医師国家試験に出題された眼科およびその関連領域の問題から抜粋された代表的な31問とその解答, 解説です。これらを勉強するとかならずや合格の日の目を見るさらなる助けとなるでしょう。

紙がめくりやすく軽い。いつもかばんの中で折れてしまう本の角が落としてあるなど, 心配りも人いや, 本一倍です。一度手にとって読んでみてください。

名古屋大学大学院・感覚器外科学 寺崎浩子

●B5 頁384 2007年

定価 7,350円(本体 7,000円+税5%)

[ISBN978-4-260-00380-3] 医学書院刊